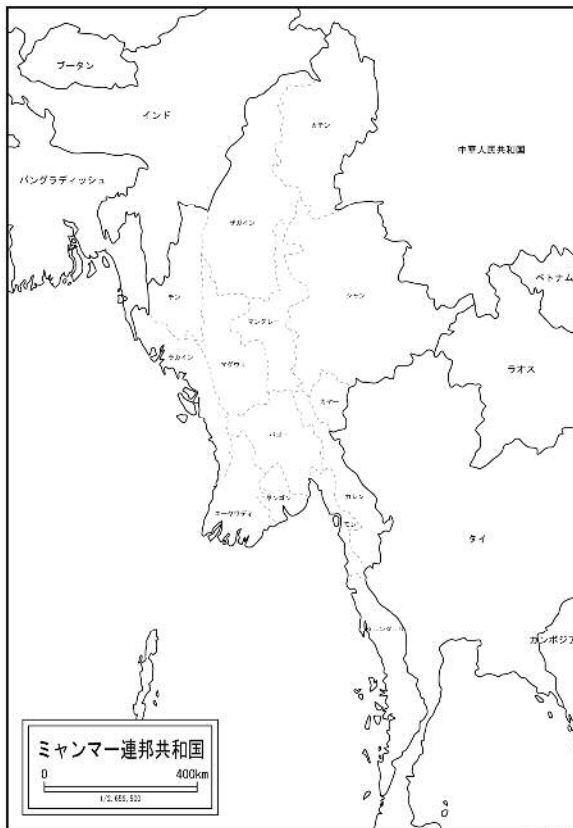


## □■ミャンマー日系企業進出状況 ■□

～戦後の歴史から紐解く日系企業の進出状況～

島根・ビジネスサポート・オフィスの八木です。今回はタイの西側の隣国ミャンマーの日系企業進出状況について、その歴史も紐解きつつお伝えしたいと思います。



### <泰緬（タイ・ミャンマー）比較>

商社勤務時代、先輩からよく聞きました。「1945年8月第二次世界大戦が終わった時点では、ミャンマーは、タイより栄えていた。そしてずっと変わらないだろうと思われていた。誰も今日（経済発展で）こんなに差がつくとは思わなかった」と。

タイの首都バンコクとミャンマーの旧首都で現在は経済の中心地ヤンゴン、この両方を訪れた方はその歴然とした違いを目の当たりにされたことでしょう。

実態をご存じなかったとしても、現在の両国の国力、経済力の差は次の通りです。

	ミャンマー	タイ
人口	54 百万人	68 百万人
面積(1,000K m <sup>2</sup> )	676	513
体制	社会主義体制 (軍事政権から脱皮模索中)	資本主義体制 (実質軍事政権)
名目 GDP(2018年 IMF 推計)	714 億ドル	4,872 億ドル
一人当たり国民所得	US \$ 1,608	US\$7,187
一般工（ワーカー）の月額賃金	US\$127	US\$344

出所) ジェトロ「アジア・オセアニア主要都市・地域の投資関連コスト比較 (2016年)



(ヤンゴン市内の街並 「Naver. JP」より)

この差が生じた主因は第二次大戦後の政治体制にあります。以下、第二次大戦後の両国の歩みです。

### ●タイ

タイは、植民地化された歴史なく、大戦前の体制に回復。しかし周辺国のベトナム、ラオス、カンボジア、そしてミャンマーが共産化、及び社会主義化。タイは東西冷戦構造の中で、西側の代表であるアメリカの支援の下、共産主義の防波堤の役割を求められました。その為、タイは「国王、仏教、軍隊の3鼎」の構図を前提に、（コップの中の争いと言われた）軍部の権力闘争の発露としての軍部のクーデターが繰り返されつつ、軍事政権が体制を支え、政治の安定を実現し、結果経済も安定、成長しました。1989年ベルリンの壁（ブランデンブルグ門）の崩壊に象徴される冷戦構造の終焉を経て、そして（1980年代後半から90年代にかけ）アメリカの経済力が衰え、結果1986年のプラザ合意によるドル安を主因とする日系企業によるタイへの生産シフトのお陰で、又台頭した中国（90年代から2010年代）も入れた世界的なサプライチェーンに、タイは組み込まれ、大きく経済発展を遂げました。

### ●ミャンマー

ミャンマーは1945年再度旧宗主国の英国の支配を受けるも、国父アウンサン将軍（現国家顧問のアウンサン スーチイ女史の父親）及びその後継者が粘り強く交渉の結果、1948年独立。戦中戦後直後を通じてこの独立に日本の特務機関「南機関」が大きな役割を果たしました。1962年ネウイン将軍が軍事クーデターを起こし、ビルマ式社会主義国に転換、所謂鎖国政策をとりました。軍部の体制維持の目的で、国民に「外部の空気を吸わせず」、「外の世界を知らしめず」、「異議を唱え、提案することを悪とする」愚民政策を推進し、民主主義の芽を摘みました。この軍事政権による社会体制も、1990年頃より民主化勢力の胎動により、民主勢力との抗争を繰り返しました。資本蓄積は進まず、経済停滞を甘んじていました。しかし、2011年軍政から民政移管を果たすと、「アジアの最後のフロンティア」として脚光を浴び始めました。私見ながら、やっとタイの

1980代末-90年代初頭に追いついたかと推察します。経済発展過程では、タイより20年は後れを取っている、否もしかして分野によっては30年後れを取ったと言えるかも知れません。しかし、これからのミャンマーの追い上げは激しく、20-30年は必要ないと感じています。

両国の日系企業進出状況は、2020年8月末現在では次の通りです。

### ●タイ

商工会議所設立1954年。加盟企業は1725社（2020年8月末現在）。因みに全世界で最大の日本商工会議所です。1725社の加盟企業を含め進出企業総数は、8,000余社と推測されます。在留邦人は、8万人から10万人とされています。

### ●ミャンマー

商工会議所設立1996年、加盟企業数416社（2020年8月末）。

未加盟企業もいると思いますが、母数から比較してタイの比ではないと思われます。在留邦人は、コロナ前は3千人、コロナ後は300人とされています。（大きく減っている理由は、医療体制が貧弱な為、一部邦人は一時帰国避難をしています。タイの邦人の一時避難は、ミャンマー、インド等の他国の駐在員に驚かれるほど少なかった模様です。）

経済発展には寄与する日系企業数のこの差は、冒頭先輩の言葉を裏付けるものかと思います。

### <黎明期の日系企業進出>

さて、ミャンマーの日系企業進出は、1945年以降、戦後間もなく商社が主導しました。日本政府の戦後賠償の無償有償借款から始まります。世に言う「4（大）プロ（ジェクト）」の、工業化支援です。具体的には、松下電器（電化製品）クボタ（農機）マツダ（Jeepタイプの軽自動車）日野自動車（6-8トンの中型輸送トラック、公共輸送のバス）製造プロジェクトからのスタートでした。松下、クボタ、マツダの3プロジェクトは三菱系専門商社の金商又一が、日野は住友商事が取りまとめました。

この4プロも1990年代に入り、製造の資材輸入の外貨調達難に直面、その上、民主化に竿を指す軍事政権に対するアメリカによる制裁処置の発動（1997年）に歩調を合わせざるを得なかった日本政府は、借款のみならず、無償援助も止め策を得ず、民間ベースだけの関係に縮小しました。企業進出も低迷し、貿易もシンガポール華僑、及びミャンマー人の海外労働による送金を頼りにするささやかな程度に落ち込みました。

斯様に、日系企業の進出状況は緩慢でしたが、1996年には、61社が進出し、ミャンマー（ヤンゴン）日本商工会議所が組織化されるまでになりました。その後1997年のアジア通貨危機に見舞われましたが、厳しい時代を乗り越えつつ、進出企業は少しずつ増え、その会員数は、98年末時点では86社に増えました。

### <企業進出の本格化>

2000年代を通じて大きく増減することはありませんでしたが、2011年以降急伸びしました。背景は、政府の民政移管による投資環境の好転です。

具体的には、2010年11月、新憲法に基づく総選挙が実施され、同月にはアウン・サン・スー・チー女史の自宅軟禁も解除されました。2011年にはテイン・セイン現大統領が就任し、ようやくミャンマーは民政移管を果たしました。それまで政権を担っていた軍部による国家平和開発評議会（SPDC）が解散し、新政府主導による民主化、国民和解（少数民族との和平交渉、停戦合意の推進）、そして経済改革に向けた前向きな取り組みが次々に打ち出されました。最初はこれらの改革に懐疑的だった国際社会も、矢継ぎ早に実施された民主化への動きや、法制度改革、経済環境整備への取り組みから、ミャンマーの変化を感じ取り、ミャンマーへの投資ブームにつながっていきました。そして、2015年11月の総選挙において、アウン・サン・スー・チー女史率いる野党・国民民主連盟（NLD）が圧勝し、今後の政権移管が無事に行われる期待感が高まりました。「ラスト フロンティア」として脚光を浴び、進出ブームを迎えました。

しかし、実際の投資につながるケースは少なく、曇気楼のようなブームだけが上滑りしていました。進出企業は、他の東南アジアと異なり、輸出志向の自動車・電機など外需依存型産業を需要先とする中小企業ではなく、建設・プラントなど内需依存型産業を需要先とする中小企業の進出がみられました。

2012年以降の日本商工会議所の会員数の増減（ネット）は以下の通りです。

2012年：32社（60%）

2013年：61社（72%）

2014年：74社（51%）

2015年：64社（29%）

2016年：64社（23%）

2017年（11月末時点迄）：21社（6%）

（注）社数の右側の比率は前年末時点との増加率

特に2012年～2014年はミャンマーブーム真っ盛りの時期であり、進出企業数も前年末対比で50%を超える急激な伸びを3年連続で示しています。将来の発展性（伸びしろ）と競合者不在という魅力をもつこと、積極的な外資受け入れ政策の結果でした。2015年以降ブームは落ち着いたものの、製造業の進出が始まり、引き続き高い進出ニーズが継続してきました。

進出企業は、インフラ（電力、交通、通信、環境等）関連や施設の整備、不動産・都市開発、並びに縫製業等、特定の業種に偏っておりました。前述の通り、製造業の割合が低いのが特徴でした。製造業の進出は喫緊の課題であったインフラ整備への投資が増加した結果、暫時インフラ整備が進むにつれて、更に伸びるものと予想されます。その理由は2つあります。1つ目は、日系企業が現在進出している中国や東南アジアの近隣諸国での人件費の高騰です。2つ目は、ミャンマーにおける事業環境の整備です。

2014年には外国銀行の営業が認められ、日本からは三菱東京UFJ銀行、三井住友銀行、みずほ銀行が認可を取得し、日本企業に取り金融インフラが整備されました。



ティラワ SEZ（Myanmar Japan Thilawa Development Ltd.,（以下、「MJTD 社」）提供）

同年には 日本政府の後押しを受けた、丸紅、三菱商事、住友商事の3商社のコンソーシアム（MMS 社）によるミャンマー ティラワ SEZ 経済特区が設立され、造成開始 2017 年には 2,400 ヘクタール（品川区の広さ）造成が完了、既に 111 社と契約が済み、既に 92 社が操業を始めています。現在 2021 年分譲を目指し第 3 期工事を進めています。これにて、インドネシア、タイ、ベトナムの工場団地同様に製造業の進出の

事業インフラも整備されました。Suzukiの第二工場（乗用車）も完成、2021年に向けトヨタも工場を建設中で、来年2021年2月には、Pick up Hilux Revoの生産が始まります。愈々東南アジアの他国同様Tier 1、2の進出も期待されます。

ミャンマーは、日系企業に限らず、世界各国からも注目され、2012年に94件だった進出企業集は、2019年9月には282件と3倍に拡大しています。日本からの投資も増えており、国別にみると年々その順位を上げ、直近(2018年4-9月)では第4位となっています。日本企業はシンガポールを経由しての投資も少なく、実際の投資金額はさらに多いと想定されます。

今後は特に製造業関連が伸びると思われれます。その大きな要因は、2018年にヤンゴン郊外のティラワ経済特区がナショナルグリッドに接続し、電力供給が安定化したためです。従来進出企業は、建設・プラントなど内需依存型企業が多かったのですが、これに加え、当座は内需を目的にするものの、他の東南アジア同様、自動車・電機など外需依存型企業の比率が伸び、中長期的に外貨獲得に貢献し、国民所得の増大に寄与するものと期待されます。

これを実現するためには、自動車、電機産業を支える中小企業群の進出が求められます。中小企業にとっても「China+1」であり、「Thailand+1」の到来が期待されます。

□ ■タイ企業インタビュー■ □

～日系企業との取引に関心のあるタイ現地企業をご紹介します～

**G.I.F. ENGINEERING CO., LTD.**

ジー・アイ・エフ エンジニアリング株式会社



ディーラユット・ブントラック

副社長

■御社の事業内容、企業規模、仕事内容を紹介してください。

GIF engineering Co., Ltd.は1992年に設立された、タイ資本100%の会社です。従業員は全員タイ人で、約250人います。弊社はどの種類や大きさの金属プレス加工製品やプラスチックの射出成形製品の製造に対応しています。自動車、モータバイク、モーターボート産業界で使用される金属製やプラスチック製のシフトワイヤー、アクセルケーブル、アクセサリ用品、ナンバープレート、スカッフプレートなどです。



▲自動車部品



▲自動車アクセサリ



▲プラスチック製の化粧品の容器



▲プラスチックの射出成形製品



▲その他のステンレス部品

■御社の強みを教えてください。

弊社の強みは祖父の時代から50年にわたり、機械やプレス加工機の製造、修繕、使用用途にあわせた機械の調整といった仕事を通して培ってきた経験と能力です。弊社は金属とプラスチック製品の金型設計に対応できます。金型の設計と製造が一貫して行える機械があるので、競合他社の優位に立つことができます。

■事業を行うにあたり、御社で大切にしている社内方針はありますか。

弊社は社員の成長に重きを置いています。社員に力が無く、十分な知識がなければ会社の発展は難しいでしょう。社員が最大限に成長すれば、会社の発展につながります。最新の技術と機械（オートメーション機械を含む）を業務にあわせて正しくかつ最大限活用することを目標としています。また労働力への報酬、製造工程の改善を重ねること、最も大切な点ですが、お客様の満足度を高めていかななくてはなりません。品質と価格が適正であることが、弊社事業が生き残るための競争戦略となります。

■技術者への研修をどのように行っていますか。

公的・私的機関にて研修を設けています。社員は「Thai-German・Institute (TGI)」やその他の訓練プログラムを行う機関で研修を受けます。加えて、社員の知識を増やし、持っている能力を向上させるため、アドバイザー、金型や様々なシステムの専門家を招いて、社内研修も行っています。



### ■社内や事業運営における障害はありますか。

政府の方針が、タイ企業で生産可能な製品でも、タイブランドやタイ製品をあまり支持せず、海外製品を重視している点です。また、投資計画や開発に関する情報を中小企業の経営者が入手するのは困難ですが、大企業の経営者は私達よりたくさん入手できます。政府にはこの点を改善してもらいたいと思います。



▲G.I.F. Engineering 社の工場内の雰囲気

### ■海外支店はありますか。今後、海外展開の予定はありますか。

海外に支店はありませんが、海外進出はしたいと考えています。しかし、現状、自社製品がありません。弊社と業務提携を結びたい、弊社と交流を持ちたい企業があればいつでも交渉可能です。協業が可能であればぜひ協力したいです。

### ■現在、御社は日本企業と事業を行っていますか。

日本企業と直接の取引はまだありません。弊社の主な顧客はタイ国内にある日系企業です。弊社の顧客の30%を占めています。

### ■将来、日本企業とビジネスを行う際に予想される困難と良い点について話していただけますか。

問題となるのは、たぶんコミュニケーションです。日本人は英語が話せない、得意ではないかもしれません。私達も同様です。そのため明確な意思疎通が図れないかもしれません。しかし、現在の技術を使用すればコミュニケーションも取り易くなり、障害も小さくなるでしょう。通訳者を雇うこともできます。日本企業とのビジネスで考えられる良い点ですが、日本人は実直です。安心して一緒に仕事ができます。

### ■日本の製品や技術に関心はありますか。日本企業とのビジネスに興味はありますか。

日本の技術やノウハウのパフォーマンスは非常に優れています。日本とタイの文化は似ているので、外国企業に比べて、相互に調整し理解しあうのは難しくないでしょう。タイ企業にとって、日本企業は事業提携先として良い選択肢だと思います。日系企業とビジネスを行うとしたら、プラスチック製品の分野を考えています。その他、自動車業界だけではなく、食品製造業や、野菜農園など、様々な分野でのビジネスのたちあげが可能です。

そして、弊社の持っている機械の8~9割は日本製の機械です。ヨーロッパの機械の性能は優れていますが、性能も高く、信頼性も高い、さらにコストパフォーマンスも高い日本製の機械を導入しています。お客様が弊社に訪問した際に、弊社が使用している日本の優秀な機械を見て、弊社の製品のクオリティに安心して下さったこともあります。



▲G.I.F.Engineering社が使用している日本製の機械

### ■タイ国内の製造業の近況についてご意見をお聞かせください。

製造業の近況は困難な状況にあります。2019年以降、自動車産業は販売数や消費が低迷しており、新規の顧客を増やすことができず、変化に対応できない経営者は問題に直面するでしょう。弊社は新規顧客を開拓するうえで経験があります。また、同時に既存顧客とこれまで以上にコミュニケーションをとり、要望を満たすようにしています。既存顧客にも満足頂きながら、新規顧客を増やしています。



CUSTOM MANUFACTURING  
METAL AND PLASTIC PARTS

MOLD DESIGN BY CAD/CAM  
CNC MACHINING CENTER  
WIRE CUT EDM

■新型コロナの影響と、どのように御社が対処されているか教えてください。

Covid19の影響で売上は80%減少しました。新型コロナが蔓延し始めた頃は、すぐに状況は改善すると考え、通常どおり従業員に就業してもらっていました。しかし、状況は思ったように回復しませんでした。現在、3~4ヶ月間、顧客に販売できる量の在庫をかかえています。直面している現実とバランスを取るため、就業日や従業員の人数を減らさなくてはなりません。確かに危機的な状況ではありますが、チャンスでもあります。機械、仕事の方法の調整や改善を図る時間を取る機会となり、コスト削減や、仕事の効率アップに大きく役立ちます。この危機的状況が過ぎ去った後、弊社は今より強くなっていることでしょう。

将来的な投資についてですが、COVID 19の感染が終わったら、弊社は自動化機械を導入することにより、新型コロナが蔓延し始めた前の従業員数に戻らずに、生産能力が戻ってくると思います。

■新型コロナが解明された後の製造業の方向性やチャンスについてご意見をお聞かせください。

今後数年自動車業界は良くないでしょう。私達が気をつける点としてCash Flowです。もし上手にコントロールできなければ、会社全体に影響を及ぼします。既存顧客を大切にしつつ、新規顧客を増やしていければ、製造業界で生き残っていけると思います。

■日本企業とタイ企業が参加するビジネスマッチング、ビジネス交流会、展示会等に関心はございますか。

製造以外に、ビジネスマッチング、ビジネス交流会、展示会など、ビジネスコネクションを築ける催事には、国内だけでなく、国外のものにも定期的に参加しています。新しい顧客を見つけ、人脈を広げ、新しいビジネスを産み出す機会を増やせます。

自動車部品の製造を行っていますが、自社製品がありません。なので、まだ海外でブース展示を行う予定はありません。しかし、もし自社製品を持つようになれば、それも可能です。参加することに興味はあります。

その他、輸入してタイ国内で販売できる機械を探しています。新型コロナ危機により経営者は変化を求められています。多くの従業員をかかえることは大きなリスクになります。従業員数を減らすためには機械を導入しなくてはなりません。私達は、今後期待できるビジネスチャンスとして注目しています。



■最後に、タイ製造業界に関心がある島根県の製造会社、またタイ国内の日系会社に対してPRをお願い致します。

弊社は顧客に満足頂ける品質や基準の部品の製造に真摯にとりこんでいます。最大の能力を身につけてもらえるよう、人材教育に力を入れています。地域や他県の学校教育の支援や向上のためアドバイスするなど社会や地域に責任感を持ち、それらの発展にも貢献しています。弊社をラーニングセンターのように活用あるいは、工場見学を希望される方をいつでも歓迎します。情報の共有、技術者派遣の準備はできています。双方の発展や知識の交換のため、助け合いながら協力して仕事を行い、延いては、将来の競争力強化のため、タイの製造従事者や製造業界のレベルを向上させたいと思います。

【会社概要】



**社名** : G.I.F. Engineering Co., Ltd.

**住所** : 420 Soi Watphaingeon, Chan Road,  
Bangklo, Bangkok, 10120  
Thailand

**Tel** : (+66)2-673-1513-5

**Fax** : (+66)2-673-1517

**Email** : bc@gif.co.th

**URL** : [http:// www.gif.co.th](http://www.gif.co.th)

☆☆タイから便り☆☆

**バンコクモーターショー2020**

バンコクモーターショー2020にて、日産のコンパクトSUV「KICKS e-POWER」とフェイスシールドを着用したコンパニオン

バンコクモーターショー2020が、7月15～26日にかけてIMPACT ムアントンタニーで開催されました。例年であれば3月下旬から開催される同イベントですが、本年は新型コロナウイルスの感染拡大を受け、3月から5月、5月から7月と2度の延期を経てようやくの開催となりました。

ニューヨークモーターショー（アメリカ）、ジュネーブモーターショー（スイス）、パリモーターショー（フランス）他、各国の国際的なモーターショーの開催中止が相次いで発表される中、コロナ禍における初の国際モーターショーとして、多くの注目を集めたバンコクモーターショー2020。今回は、このバンコクモーター2020年のイベントレポートをお伝えいたします。

バンコクモーターショー2020 イベント概要	
イベント名	第41回バンコク国際モーターショー（バンコクモーターショー2020）
開催期間	2020年7月15日（水）～26日（日）
イベント会場	インパクト・ムアントンタニー（IMPACT Muang Thong Thani）
チケット代金	THB100/PAX
主催者	Grand Prix International Public Company Limited <a href="https://www.grandprix.co.th/">https://www.grandprix.co.th/</a>
公式ウェブサイト	<a href="https://bangkok-motorshow.com/bims41/main.php">https://bangkok-motorshow.com/bims41/main.php</a>
出展ブランド	四輪車 27ブランド、二輪車 12ブランドが出展

【イベントレポート】



今回、世界初の展示となったトヨタの新型 SUV「カローラクロス」

○出典ブランド

新型コロナウイルスの感染拡大後、新車販売の売上げが落ちる中、四輪車 27 ブランド、二輪車 12 ブランドが今回のイベントに出展しました。日系各社は、近年需要が拡大している SUV（スポーツ多目的車）を中心に新モデルを出展し、市場の回復を促進しました。

タイの自動車市場で 3 割のトップシェアを誇る、タイ国トヨタ自動車は、7 月 9 日に世界初公開した、「カローラ」シリーズの新型 SUV「カローラクロス」を世

界で初めて展示した他、SUV「フォーチャナー」等を展示。

また、タイ日産自動車は、独自のハイブリッド技術「e-POWER」を搭載した、SUV「キックス」を出展。なお、今年の 5 月にタイでの販売を開始したこのモデルは、バンコク近郊サムットプラカーンにある工場生産されています。

マツダセールス（タイランド）は 2020 年度第 1 四半期のクロスオーバー-SUV 市場でトップシェアを獲得しています。そんな同社からは、7 月 2 日に発売された、クロスオーバー-SUV「CX-3」や、タイで 5 月 7 日に発表され、ロードスターの名で親しまれる、「MX-5」の新モデルが展示されました。その他、プジョー、BMW、フォード、ミニクーパー、ランボルギーニや MG 等の国際的な高級ブランドが多数出展していました。



マツダ「MX-5」の新モデル



ランボルギーニ社の展示ブース



2月14日からタイで事前購入を開始した「MINI クーパーSE」



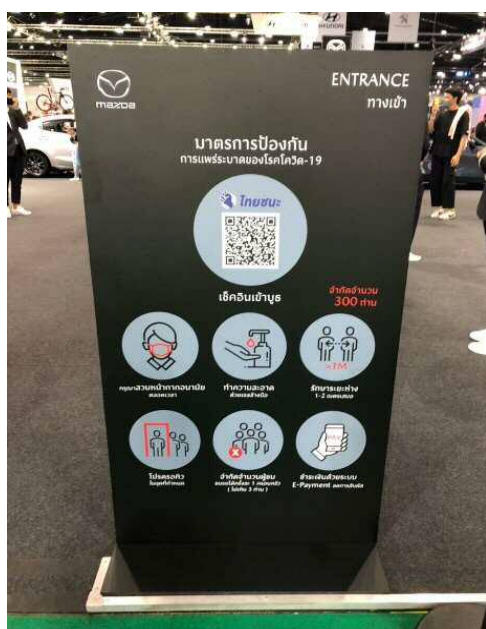
現在タイで人気、MG社の電気自動車「MG ZS EV」

今回のバンコクモーターショーには、平日の午後3時頃から参加をしました。国内での新規感染者は出ていない状況ではありましたが、大規模なイベントへの参加は多くの人が自粛するのではないかと閑散とした会場をイメージしていました。ですが、実際に会場に入ると、それなりの人出で賑わっており、昨年と同じく平日に参加したスタッフからは、「昨年度の時よりも人が多いのではないか」という声もありました。

冒頭でも述べた通り、バンコクモーターショー2020 コロナウイルスの感染拡大後初の大規模自動車展示会とあり、ソーシャルディスタンスの確保等、イベントの運営方法にも注目が集まりました。来場者のマスク着用の義務化はもちろん、各メーカーのスタッフもマスクを着用、イベントに華を添えるコンパニオンもフェイスシールドを着用し、各所に消毒液を設置する等、感染拡大防止措置が取られました。



フェイスシールドとマスクを着用し、「KEEP THE DISTANCE（距離を保って）」と書かれた看板を掲げるイベントスタッフ



マツダの展示エリア入口に置かれた、タイチャナのQRコード

また、現在国内各地の商業施設にも設置されている、「タイチャナ」というオンラインプラットフォームのQRコードが、各ブランドの展示ブースの出入口に置かれ、各ブースへの入退時の登録が必須とされました。この登録作業を行うことにより、各ブースに設けられている入場者数が設定される制限数を上回らないよう管理が可能となります。更に、もしもイベント参加者から感染者が出てしまった場合、同じ日時、同じブースにいた来場者、イベント関係者を特定ができ、クラスター（集団感染）の発生を最小限に食い止めることができるのです。

その他、展示車の説明を行うスタッフの他に、車のドアやハンドル等、来場者が触れる箇所を消毒するス

タッフがいたり、サーモグラフィーカメラによる検温等の感染防止策が実施されました。



【イベントの成果】

バンコクモーターショーの特徴の1つは、各メーカーが展示スペースの裏に商談スペース設け、現地で車を販売するトレードショーにもなっているという点です。東京や欧米諸国のモーターショーは、新車発表の場という側面が強いですが、バンコクでは新車販売の側面が強いのです。そのため、各ブランドは、バンコク近郊のディーラーからセールススタッフを集め、自車の販売に奔走するのです。こういった事情から、バンコクモーターショーでの車の成約台数が、その年の自動車需要を反映する1つの指標とされます。今回の成約台数は、前年比の53.9%減となる、2万2,791台。来場者は、前年の160万人から約34%減の104万9,046人だったと、同イベントの主催者であるグランプリ・インターナショナルが発表しました。

コロナウイルスの影響によるタイ経済の減速から、成約台数・来場者数への大きな影響は免れなかったものの、グランプリ・インターナショナル社のジャトゥロン最高執行責任者（COO）は「予想よりも大きな来場者があった」とコメントしており、成約台数に関しても予想されていた数字を上回ったことから、下半期の市場は回復に向かうのではという見込みがされています。



MG社の商談ブースの様子

バンコクモーターショー2020 ブランド別成約台数

四輪車		
ブランド	台数	増減(%)
トヨタ	3,745	▲38.7%
マツダ	2,365	▲54.6%
ホンダ	2,001	▲59.3%
スズキ	1,583	▲31.7%
いすゞ	1,510	▲44.4%
MG	1,399	▲37.1%
三菱	1,227	▲59.4%
日産	952	▲57.8%
BMW	888	▲43.4%
フォード	742	▲59.6%
合計	18,381	▲58.2%
二輪車		
ホンダ	1,545	21.3%
ヤマハ	1,387	91.8%
カワサキ	446	▲17.3%
ロイヤル・エンフィールド	321	2.2%
スズキ	203	-
合計	4,410	▲17.5%
四輪・二輪車の合計	22,791	▲53.8%

出所：グランプリ・インターナショナル ([https://bangkok-motorshow.com/bims41/details\\_update.php?id=1521&lan](https://bangkok-motorshow.com/bims41/details_update.php?id=1521&lan))

【今後の世界のイベント開催はどうなる？】

年内に予定されている多くのイベントが中止・延期となる中、例年10月に行われるパリモーターショーの主催団体は、今年の「現行の形式」での開催を中止する旨を発表し、現在その代替案が模索されています。イベントによってはオンラインでの開催がされるなど、コロナウイルスの影響下で世界中でその実施方法の見直しがされています。

来年のバンコクモーターショーは2021年3月24日から4月4日開催予定ですが、これからの世界のイベント開催動向が注目されます。

※別紙に、年内に開催予定のタイ・インドネシア・ベトナムの展示会情報をまとめました。

サポートオフィスでは、現地で開催される展示会へのアテンドも行っております。

関心のある展示会がございましたら、お気軽にご連絡ください。

担当 ; 神谷 靖子 Yasuko Kamiya

Address :1 Glas Haus Building, 12 FL., Room 1202/D,Soi Sukhumvit 25,  
Sukhumvit Rd.,Klongtoey-Nua,Wattana,Bangkok 10110

Tel :+66-(0)-2-261-1058

Mobile :+66-(0)-89-200-7763

Mail : shimane-bizsup@aapth.com

▶ タイ経済指標

項目	単位	2017	2018	2019	2020
GDP 成長率	前年比ベ(%)	4.1	4.2	2.4	-1.8(1~3月)
人口*	千人	67,697	67,869	68,021	68,067(4月)
労働者の数*	千人	37,716	38,353	38,207	38,213(3月)
失業率**	%	1.18	1.06	0.99	1.06(3月)
最低賃金*	バンコク	310	325	325	331
	チョンブリー	308	330	330	336
	アユタヤー	308	320	320	325
	ラヨーン	308	330	330	335
賃金: 全国製造業の平均	バーツ	12,473	12,831	13,131	13,368(3月)
インフレ率**	前年比ベ(%)	0.67	1.06	0.71	-1.13(6月)
中央銀行政策金利*	%	1.50	1.75	1.25	0.50(8月)
普通貯金率**	%	0.47	0.47	0.47	0.35(7月)
ローン金利(MLR) **	%	6.35	6.32	6.29	5.73(7月)
SET 指数*	1975年:100	1,753.71	1,563.8	1,579.84	1,328.53(7月)
バーツ/100円**	バーツ	30.27	29.26	28.48	29.25(7月)
バーツ/米ドル**	バーツ	33.9	32.31	31.05	31.59(7月)
円/米ドル**	円	112.2	110.4	109	108(7月)
車販売台数(1月からの累計)	台数	869,763	1,041,311	1,019,602	341,581(6月)
BOI 認可プロジェクト	件数	1,227	1,469	1,500	815(1~6月)
BOI 認可プロジェクト金額	10億バーツ	625.08	549.48	447.36	213.16(1~6月)

\*期末、\*\*平均